

帝キネ時代映畫

原作者 隅田武聲  
監督者 矢内政治

主要役割

五月縁之助 實川延松  
妹道代 松葉笑子  
野塚權三郎 市川海老三郎  
妻お蘭 若柳みどり

按察春市 藤井實  
妹お君 望月禮子

五月縁右衛門 市川幅十郎  
深水秀之進 佐賀清一

解説 矢内政治氏の「町人魂」に次ぐ作品である。

時筋——無明地獄に呻吟する通り魔五月縁之助は凡ての女を呪咀しつゝ、仇を求めて彷徨の幾星霜。大江戸の灯さもし頃憎悪と怨嗟を深く胸に秘めたる彼は夜叉の如く闇に狂亂し女計かりの犠牲は相次いで巷に横はるのだつた。一日按摩春市を救ひ彼の姉お君も自分の犠牲となつたと聞き知つた彼の自費の念は一層彼を悩ました。春市が願ひ「仇を討ち度い」願も同じ縁之助は今更に裏切者お蘭と父の仇野塚權三郎を追求した、時意外にも春市の口から漏された野塚權三郎の名、然も麻布に居ると知るや彼の狂喜して麻布へ。時又しても響く暮の鐘、矢張り今宵も彼の無明地獄、お道は健氣にも單身權三郎の邸に忍び入り相違なきを見兄に知らすべく戻つて来るさ出合頭無慘にも縁之助は只一人の憎めない女妹道代を斬つた。外道の兄を案ずる道代の優しい心情、縁之助の憤怒の及ばざるを關を始め仇權三郎を刺した、然し如何に理性を失つた通り魔であつたにせよ縁之助の真心は春市の怨みの一刀を右手に受けた。やがて惠まれない縁之助と春市の二人にも来るべきなごやかな春が訪れた。